

【表紙】

【提出書類】	訂正発行登録書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年2月1日
【会社名】	日本ハム株式会社
【英訳名】	NH Foods Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 畑 佳 秀
【本店の所在の場所】	大阪府大阪市北区梅田二丁目4番9号
【電話番号】	大阪(06) 7525局3042番
【事務連絡者氏名】	経理財務部長 長 谷 川 佳 孝
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区大崎二丁目1番1号
【電話番号】	東京(03) 4555局8051番
【事務連絡者氏名】	執行役員経営企画本部経営企画部長 藤 原 寛 英
【発行登録の対象とした募集有価証券の種類】	社債
【発行登録書の提出日】	2019年9月3日
【発行登録書の効力発生日】	2019年9月11日
【発行登録書の有効期限】	2021年9月10日
【発行登録番号】	1 - 関東 1
【発行予定額又は発行残高の上限】	発行予定額 50,000百万円
【発行可能額】	50,000百万円 (50,000百万円) (注) 発行可能額は、券面総額又は振替社債の総額の合計額(下段()書きは、発行価額の総額の合計額)に基づき算出しております。
【効力停止期間】	この訂正発行登録書の提出による発行登録の効力停止期間は、2021年2月1日(提出日)であります。
【提出理由】	臨時報告書(金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号の規定に基づくもの)を2021年2月1日に関東財務局長に提出しました。この臨時報告書の提出により、当該書類を2019年9月3日付で提出した発行登録書の参照書類とします。また、2019年9月3日に提出した発行登録書の記載事項中、「第一部 証券情報 第1 募集要項」の記載について訂正を必要とするためおよび「募集又は売出しに関する特別記載事項」を追加するため、本訂正発行登録書を提出します。
【縦覧に供する場所】	日本ハム株式会社東京支社 (東京都品川区大崎二丁目1番1号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

【訂正内容】

第一部【証券情報】

第1【募集要項】

<日本ハム株式会社第14回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（サステナビリティボンド）（別称：日本ハムサステナビリティボンド）に関する情報>

1【新規発行社債】

（訂正前）

未定

（訂正後）

本発行登録の発行予定額のうち、金10,000百万円を社債総額とする日本ハム株式会社第14回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（サステナビリティボンド）（以下「本社債」という。）（別称：日本ハムサステナビリティボンド）を、下記の概要にて募集する予定であります。

各社債の金額 : 金1億円
発行価格 : 各社債の金額100円につき金100円

2【社債の引受け及び社債管理の委託】

（訂正前）

未定

（訂正後）

社債の引受け

本社債を取得させる際の引受金融商品取引業者は、次の者を予定しております。

引受人の氏名又は名称	住所
S M B C日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内三丁目3番1号
野村証券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目13番1号

（注）上記のとおり、元引受契約を締結する金融商品取引業者のうち、主たるものはS M B C日興証券株式会社および野村証券株式会社を予定しておりますが、その他の引受人の氏名又は名称およびその住所ならびに各引受人の引受金額、引受けの条件については、利率等決定日に決定する予定であります。

3【新規発行による手取金の使途】

(1)【新規発行による手取金の額】

（訂正前）

未定

（訂正後）

本社債の払込金額の総額10,000百万円（発行諸費用の概算額は未定）

(2)【手取金の使途】

(訂正前)

設備投資資金、運転資金、借入返済資金、社債償還資金、短期社債償還資金、関係会社への投融資資金に充当する予定であります。

(訂正後)

設備投資資金、運転資金、借入返済資金、社債償還資金、短期社債償還資金、関係会社への投融資資金に充当する予定であります。

本社債の手取金については、新球場「ES CON FIELD HOKKAIDO (エスコン フィールド HOKKAIDO)」を保有する当社の連結子会社である株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメントへの出資により減少した手元資金および株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメントへの投融資資金に充当する予定であります。

なお、株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメントは、当該投融資資金を新球場の建設に関する支出に充当済および今後充当する予定であります。

また、実際の充当時期までは、現金又は現金同等物にて管理する予定です。

【募集又は売出しに関する特別記載事項】

<日本ハム株式会社第14回無担保社債(社債間限定同順位特約付)(サステナビリティボンド)(別称:日本ハムサステナビリティボンド)に関する情報>

サステナビリティボンドとしての適格性について

当社は、本社債についてサステナビリティボンドの発行のために国際資本市場協会(以下「ICMA」という。)の「サステナビリティボンド・ガイドライン(Sustainability Bond Guidelines)2018年版」(注1)および環境省の「グリーンボンドガイドライン2020年版」(注2)に則したサステナビリティファイナンス・フレームワークを策定し、サステナビリティクスよりセカンドオピニオンを取得しております。

(注1) 「サステナビリティボンド・ガイドライン(Sustainability Bond Guidelines)2018年版」とは、ICMAにより策定されているサステナビリティボンドの発行に係るガイドラインをいい、以下「サステナビリティボンド・ガイドライン」といいます。

(注2) 「グリーンボンドガイドライン2020年版」とは、グリーンボンド原則との整合性に配慮しつつ、市場関係者の実務担当者がグリーンボンドに関する具体的対応を検討する際に参考とし得る、具体的対応の例や我が国の特性に即した解釈を示すことで、グリーンボンドを国内でさらに普及させることを目的に、環境省が2017年3月に策定・公表し、2020年3月に改訂したガイドラインをいいます。

サステナビリティファイナンス・フレームワークについて

当社は、サステナビリティファイナンスの調達を目的として、ICMAのサステナビリティボンド・ガイドラインおよび環境省のグリーンボンドガイドライン2020年版に適合するサステナビリティファイナンス・フレームワークを以下のとおり策定しました。

1. 調達資金の使途

本社債で調達される資金は、以下の適格クライテリアを満たす「HOKKAIDO BALL PARK F VILLAGE(北海道ボールパークFビレッジ)」の新球場「ES CON FIELD HOKKAIDO(エスコン フィールド HOKKAIDO)」の建設に関する支出に充当済みおよび今後充当する予定です。

	適格カテゴリー	適格クライテリア
グリーンプロジェクト	グリーンビルディング	DBJ Green Building 認証(注3)における5つ星
ソーシャルプロジェクト	必要不可欠なサービスへのアクセス向上	(受益層) 障がい者・高齢者 ・多機能トイレ ・車いす利用者専用駐車場 ・車いす用の観戦スペース ・盲導犬との同伴観戦スペース ・スロープ ・3 塁側ゲート大階段のエスカレーター (受益層) 自然災害の罹災者 ・備蓄倉庫 (受益層) 若年層の弱者グループ ・子供向け無料遊具 ・多機能トイレ ・スロープ (受益層) 外国人等のマイノリティ ・都市公園内における案内板の多言語表記

(注3) 「DBJ Green Building 認証」とは、株式会社日本政策投資銀行(DBJ)が、独自に開発した総合スコアリングモデルを利用し、環境・社会への配慮がなされた不動産(Green Building)を対象に、5段階の評価ランク(1つ星～5つ星)に基づき評価する認証制度をいいます。

2. プロジェクトの評価および選定のプロセス

対象事業の評価と選定のプロセスについては、日本ハム株式会社の経理財務部が適格クライテリアに適合していることを確認し、経理財務部の担当役員が最終決定を行います。

3. 調達資金の管理

サステナビリティファイナンスにより調達した資金は、償還されるまでの間、日本ハム株式会社の経理財務部にて内部管理システム・帳票等を用いて年次で充当状況を管理します。なお、調達資金の充当が決定されるまでの間、現金又は現金同等物にて管理する予定です。

4. レポーティング

調達資金の全額が充当されるまでの間、年に一回、充当状況を当社ウェブサイト上（「ニッポンハムグループ統合報告書」等）で開示します。調達資金の充当後に資金状況の大きな変化が発生した場合には、調達資金の充当状況を示すレポートを当社のウェブサイト上にて適宜公表します。

資金充当状況のレポーティング

- ・ 充当金額
- ・ 未充当金の残高
- ・ 調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の概算額（又は割合）

インパクトレポーティング

調達資金の全額が充当されるまでの間、守秘義務の範囲内、かつ、合理的に実行可能な限りにおいて、年に一回、以下の情報を当社ウェブサイト上（「ニッポンハムグループ統合報告書」等）で開示します。

	適格カテゴリー	環境改善効果および社会改善効果
グリーンプロジェクト	グリーンビルディング	（建設期間中） ・ 認証取得手続きの進捗状況 （竣工後） ・ 環境認証の一覧 ・ エネルギー使用量 ・ CO2 排出量 ・ 水使用量
ソーシャルプロジェクト	必要不可欠なサービスへのアクセス向上	・ 車いす利用者専用駐車場の設置規模 ・ 多機能トイレの設置数 ・ 車いす用の観戦スペース規模 ・ 盲導犬との同伴観戦スペース規模 ・ スロープの設置数 ・ 3 塁側ゲート大階段のエスカレーターの設置数 ・ 備蓄倉庫における非常食等の備蓄量 ・ 子供向け無料遊具の設置数 ・ 都市公園内における多言語表記案内板の設置数